

## 事業計画書

事業名	「ママが働く」を考えよう！ ワークショップ篇
場所	沼津市 サンウェル「ぬまづ」 地内
実施予定期間	平成29年9月1日～平成30年3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<p>※ イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。</p> <p>子育てのために休職、あるいは一旦離職した母親を対象に、復職や再就職に向けた『ママが働く』ことについて考えよう」ワークショップを開催する(託児付き)。「働く」というテーマは、子どもが大きくなればいずれほぼ全ての母親が直面する課題であり、今、関心が薄い層にも早くからアンテナをたて、情報収集を促す必要がある。そのため、母親層が興味を持ちやすいランチ付きの講座とする。</p> <p>講座では、地域でさまざまな働き方をしている、沼津在住または出身の先輩ママ(正社員・時短勤務・パート・在宅ワークなど)をアドバイザーとして招聘し、等身大のリアルボイスを届ける。参加者は、各検討中の働き方でグループをつくり、今不安に思う問題点や課題を、それぞれシェアし解決方法を模索する。当団体はこのテーマで以前地域の母親にアンケートを実施し、またパネルディスカッションを開催した実績もあり、それらから得た情報も提供する。講座に集中していただくために、託児を付帯する。</p> <p>講座後のケータリングランチ交流会の委託予定先であるwcp(日本ウーマンズシェフ&amp;パティシエ協会)は、飲食分野でワークシェアという形態で出産後も活躍している女性料理人集団である。産後の女性の働き方の一モデルとしての提示を行うと共に、参加者の交流および情報交換を促進する。</p> <p>打ち合わせ：アドバイザーとの打ち合わせ、WCP 打ち合わせ  資料作成：広報のためのチラシ制作(A4片面、印刷1000枚程度予定)  参加者募集(広報)：当団体ウェブサイトおよびfacebook、可能であれば沼津市内幼稚園保育園でのチラシ配布  実施場所：サンウェル「ぬまづ」(予定)。講座および託児で2部屋使用  参加対象：将来、働くことを考えている、あるいは現在働いている母親  定員：24名(ワークショップグループが6名×4グループ程度)  当日人員配置：ファシリテーター1名、アドバイザー(各働き方)3名程度  受付および総務1名、書記1名、託児スタッフ5名。合計11名(予定)</p>
事業効果	<p>※ 事業の効果を記載してください。</p> <p>ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記してください。</p> <p>地域の先輩ママの実体験を聞き、また同じような境遇のママ同士で問題点をシェアし解決策を模索することで、不安要素を取り除き、就業や復職にポジティブな気持ちを持つことができる。</p> <p>また交流会を設けることで、リラックスした雰囲気の中で母親同士が新たな繋がりをもつことを促進し、就業や復職後も新たに生じる困難に対し、孤独感を抱くことなく問題点をシェアしていけるような関係づくりをサポートする。</p>

<p>公益性</p>	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載してください。</p> <p>「女性活躍」が推進され母親の社会参加が話題に上る昨今、復職を含め社会参加を試みようとしても、家事育児の合間の情報収集は時に困難であり、不安を感じている母親も多い。</p> <p>そこで地域の中心的な母親支援団体である当団体が「働く」ことをテーマにとりあげ、事業を開催するとともに、当団体が所有するウェブサイトを通じて広く発信することで、母親たちの不安を取り除き、地域の母親たちが一歩、地域社会へ踏み出す一助となりたい。</p>
<p>発展性</p>	<p>※他の住民や地域との連携や、どのような波及効果が見込めるのか記載してください。</p> <p>小さい子どもを子育て中の母親は、情報収集が難しく、時に口コミが大きな情報源となる。この地域では、今まで「働く」に特化した講座は少なく、これを開催することで、講座に参加するという一歩を踏み出せた参加者たちの不安を取り除くとともに、口コミにて、まだ一歩を踏み出せない周囲の母親層への波及効果が期待できる。</p> <p>また、当団体は、3年前の設立時より繰り返し「働く」ことに関するミニ講座を開催しており、今後の継続も予定している。今後とも同様の参加希望者の受け皿になりえる。また、4月に開催した「働く」に関する講座では、地域の企画会社で、長泉町のワクキヤリ事業の委託会社でもあるビズホープと連携しており、例えば起業など当団体があまり扱わない分野については、こういった連携先の団体を紹介することも可能である。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載してください。</p> <p>講座では地域の状況を反映するため、沼津在住または出身の先輩ママにアドバイザーとして参加してもらう。</p> <p>また当団体の今までの講座実績や、地域の母親たちから得たアンケート結果より、当団体には近隣のホカツ状況や、この地域のリアルな働く母親たちの声が蓄積されている。これらを講座では大いに活用し、情報提供する予定である。</p>
<p>必要性</p>	<p>※事業を実施する意義や、財政的に支援を要する理由について記載してください。</p> <p>女性活躍は、今、国家的にも喫緊の課題である。しかし、とくに産後の女性にとってはその道は険しく、問題は山積している。問題点、課題点は地域ごとに異なっており、現実の解決策を検討するには地域の声を拾い上げた講座が必須である。また、母親目線で課題を投げかけ解決策を模索することが共感のポイントであり、企画運営が現役の母親層である当団体こそがこの事業に最適である。</p> <p>広報費用や交流会費用のすべてを参加者負担にすれば、現在働いていない母親層にとっては参加ハードルがあがり、必要な層に届けることができない。財政的な支援を受け、必要としている層に確実に参加機会を提供したい。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載してください。</p> <p>雇用者目線の、ワークライフバランスや女性活躍のための講座などは散見するが、当事者である母親層自体が発信母体となり、等身大の働く母親像を提示し、問題解決の糸口をさぐる講座は近隣に当団体以外見当たらない。</p> <p>同じ目線だからこそ共感されやすい内容、そして、身近なロールモデルだからこそ、参加者の行動変容、意識変容を促しやすい、という点が当事業の特徴である。</p>
<p>継続性</p>	<p>※助成事業終了後に、どのように継続的・自立的な活動に取り組んでいくのかについて記載してください。</p> <p>当団体は企画運営団体であると共に、母親層向けに特化したウェブサイトを保有しており、情報発信媒体でもある。今後も、当団体主催で同様の「働く」に特化した事業を今までどおり継続するのはむろんのこと、近隣における関連分野の講座やイベントについても、サイトを通じて地域の母親層に発信していく。すなわち、主催事業と情報提供の両面から、働くことを模索する母親への支援を継続する。</p>